

仲間のために、サポーターのために 一生懸命に頑張る。 そんなサッカーが大好きです!!

「トーキョー」。そのひと言に日本中が湧いたあの瞬間から、アスリートはもちろん、すべてのスポーツファンが2020年を今か今かと待ちわびています。6年後のメダル獲得を期待されるのは、やはり伸び盛りの若手選手たち。そんな中、女子サッカーにおいて熱い視線を集めるのがスベラツァFC大阪高槻のディフェンダー、畑中選手です。チーム最年少とは思えない勝負勘とタフさを武器に、縦横無尽にピッチを駆ける畑中さんにお話を伺いました。



—サッカーを始めたきっかけは？

畑中 小学2年生の時、幼なじみの男の子に誘われて男子サッカーチームに入団。間もなく女子サッカーチームにも入り、しばらくは掛け持ちしていました。

—サッカーの面白さに夢中になったと…。

畑中 両親ともにサッカーをしていたので、「それいけっ」という感じで。父親は選手生活の後、あるチームの監督に。母親は日本選抜にも選ばれたんですよ。私がサッカーを始めるまで知りませんでした(苦笑)。本気で頑張ろうと思ったのは、小学6年生で出場したフットサルの大会で全国3位に入賞したあたりかな。チームの仲間と一緒に頑張る素晴

らしさに目覚めたんです。自分のためでなく、誰かのために一生懸命になるって素敵だと思って。
—スベラツァFC大阪高槻に入団したのは？

畑中 当時所属していたFCヴィトリリアの先輩が、スベラツァFC大阪高槻に移籍することが決まっていた、自



(C) SPERANZA FC OSAKA TAKATSUKI

分も練習に参加させてもらっていたら「ウチでやってみない?」と誘われたんです。2013年2月のことでした。

—入団から約1年ですが、率直な感想を聞かせて下さい。

畑中 レベルの違いを思い知らされましたね。それまでのプレイが通用しなくなっただけで、カラダを動かすのが好きなので練習量には自信があったのですが、サッカーにはアタマも必要だと気づかされました。

—アタマを使うと言えば、学業との両立も気になります。

畑中 確かにどちらも大切で

す。でも、それほど大変だとは思っていません。朝練は週に3回、6時起床で約1時間ずつとヘディングの練習をしています。私も頭が痛くなりませんが、ボールを投げる父親もしんどいと思いますね(笑)。それから登校して授業を受け、下校後は自宅で勉強。19時からチームの練習です。

—昨シーズン中、最も印象に残った試合は？

畑中 皇后杯の3回戦で、最終試合となったアルビレックス新潟レディース戦です。敗けはしましたが、とくに後半からスベラツァFC大阪高槻らしいプレイができたんじゃないかと思います。選手一人ひとりが持ち味を發揮し、しかも理想的な連携ができた感じ。今シーズンのスタートダッシュにつながると信じています。

—今後の話で言えば、やっぱり東京五輪も気になります。
畑中 その時には私も25歳。キャリアも体力も、ちょうど良い年齢だとは思いますが。しかし、私自身は遠くの夢よりも近くの目標をめざして頑張るタイプ。今年はチャレンジャーリーグでの戦いになりますが、サポーターの皆さんの期待に応えるためにも、必ずなでしこリーグへの振り返りを果たします。

—サポーターの皆さんはもちろん、地元高槻や大阪のサッカーファンも期待しています。

畑中 試合後はいつも応援席まで駆け寄るのですが、声援に応えられなかった時も「次は勝とうぜ!」「応援頑張るからね!」と声を掛けてくれます。皆さんには心から感謝していますし、自分たちのプレイでその思いを伝えていきたいです。



スベラツァFC大阪高槻
畑中 美友香選手
はたなか みゆか

1996年生まれ。スベラツァFC高槻ピンクーズ、FCヴィトリリアを経て、2013年2月にスベラツァFC大阪高槻へ入団。高校2年生でありながら、シーズン1年目にしてレギュラーの座を獲得。DF(ディフェンダー)として活躍する。また、U-19日本代表に選ばれ、オールスター戦にも出場を果たす。好きな言葉は「ありがとう」「一生懸命」。愛称は「みゆか」

Special Interview スペシャルインタビュー